

技術の歴史をさぐる



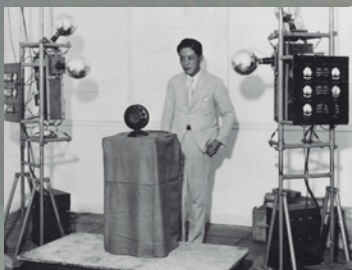
まえじま まさひろ
前島 正裕 理工学研究部 科学技術史研究グループ

電気は不思議です。眼には見えないけれど、空間を伝播し、細い電線で送ることもできて、身の回りのさまざまな装置を動かしています。そのような電気の理論が発見され、様々に応用されるようになった歴史に興味があります。特に未来の科学技術と人との関係を見据えながら、電気技術の歴史を調べています。

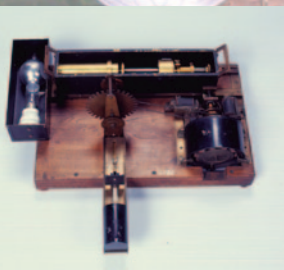
主要な担当分野と主な資料

電力・照明分野、電子・通信分野、音響・映像関係分野、
計算機・コンピュータ分野の資料を担当しています。これらは、日本の近代化の過程や科学技術立国の歩みを示すと同時に、これからの科学・技術に示唆を与えてくれます。

最近収集した主な資料



日本のテレビの父、高柳健次郎の「テレビジョン実験装置」



国産初のファクシミリ「NE式写真電送装置」



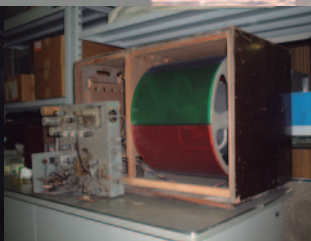
世界最速の演算速度を誇った地球シミュレータ(海洋研究機構)



並列処理技術の先駆「計算機QA-1」(京都大学)



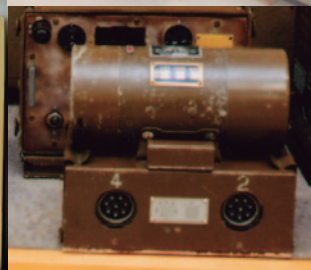
世界初のマイクロコンピュータを使用したLSI電卓



1940年頃に考案された「CBS方式カラーテレビジョン」



稿本「寺島宗則傳」：寺島は初代電信頭として日本の近代化を先導しました

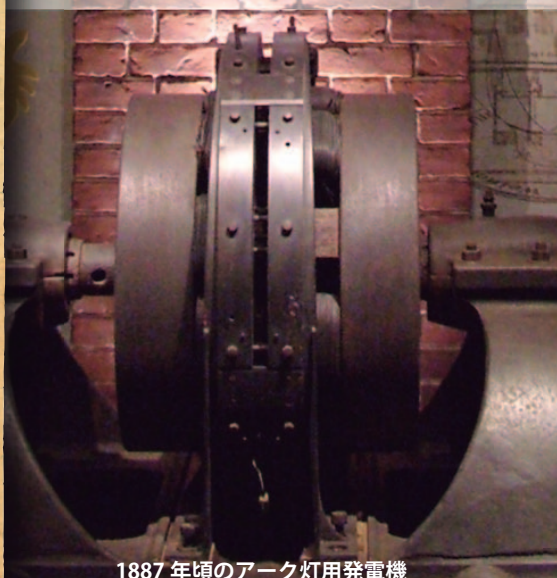


昭和初期の無線技術を示す「飛一号無線機」

最近担当した展示

日本を明るくした男達

明治のハイテク機器、電話の使用を勧める「すどろく」



1887年頃のアーク灯用発電機「ブラッシュ式交流発電機」



夜の街が明るくなる。